令和４年度

全国学力・学習状況調査結果報告【概要版】

印西市　小学校・中学校

いんザイ君©2011 Inzai City

印西市教育委員会

印西市教育センター

１　調査の概要

（１）調査の目的

〇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る。

〇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

〇以上のような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査を実施した児童生徒数（印西市）

小学校第６学年・・・１，１００名

中学校第３学年・・・　　９０２名

（３）調査事項及び手法

①児童生徒に対する調査

ア　教科に関する調査〔国語，算数・数学，理科〕

国語，算数・数学はそれぞれ次の（ア）と（イ）を一体的に出題。

（ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能　等

（イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力　等

イ　質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

（４）調査実施日

令和４年４月１９日（木）

２　小学校調査

（１）教科に関する調査

【全国・千葉県との比較】

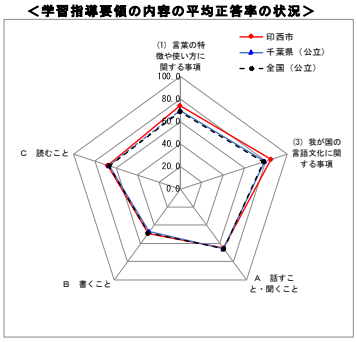
【国語科】

集計結果

対象児童数	印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
	1,098	48,451	965,308

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
全体			14	68	66	65.6
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	74.0	70.1	69.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	84.6	79.2	77.9
	思考力，判断力，表現力等	A　話すこと・聞くこと	2	65.1	65.7	66.2
		B　書くこと	2	48.8	47.0	48.5
		C　読むこと	4	68.0	66.8	66.6
評価の観点		知識・技能	6	75.8	71.6	70.5
		思考・判断・表現	8	62.5	61.6	62.0
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	8	73.7	71.4	71.8
		短答式	3	70.9	66.1	63.6
		記述式	3	50.8	50.8	51.3

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



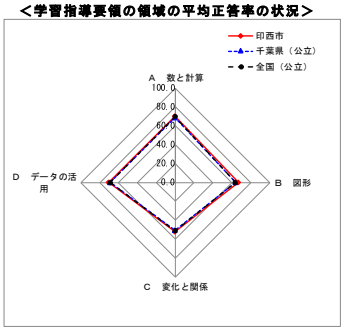
【算数科】

集計結果

対象児童数	印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
	1,100	48,437	965,431

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
全体		16	65	63	63.2
学習指導要領の領域	A　数と計算	6	70.2	68.6	69.8
	B　図形	4	67.1	64.2	64.0
	C　測定	0			
	C　変化と関係	4	52.4	50.7	51.3
	D　データの活用	3	70.3	68.5	68.7
評価の観点	知識・技能	9	69.5	67.8	68.2
	思考・判断・表現	7	58.4	55.8	56.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	54.5	51.4	51.8
	短答式	6	78.4	76.2	76.5
	記述式	4	59.3	58.9	60.2

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



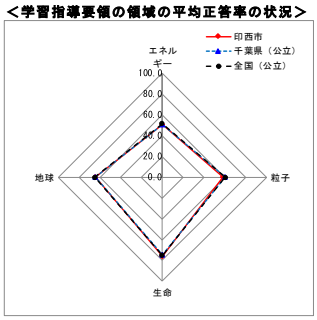
【理科】

集計結果

対象児童数	印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
	1,097	48,465	965,761

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
全体			17	63	63	63.3
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	51.0	50.6	51.6
		「粒子」を柱とする領域	5	58.2	60.5	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	76.0	74.5	75.0
		「地球」を柱とする領域	5	64.2	63.9	64.6
評価の観点		知識・技能	6	60.7	62.3	62.5
		思考・判断・表現	11	63.5	63.0	63.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	11	66.7	66.5	66.8
		短答式	3	62.8	66.2	66.2
		記述式	3	46.9	45.9	47.3

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



【結果と分析】

＜国語科＞

全体の正答率は，全国平均・県平均を上回っている。

領域等別では，ほぼ全国平均・県平均を上回っている。ただし「話すこと・聞くこと」の領域は全国平均・県平均を下回った。

問題形式別でみると，選択式と短答式において全国平均・県平均を上回るが，記述式は全国平均を下回る。記述式の設問に課題がある。

漢字の書き取りにおいては，大きく全国平均・県平均を上回っている。

＜算数科＞

全体の正答率は，全国平均・県平均のどちらも上回っている。

領域等別でも，すべての領域で全国平均・県平均のどちらも上回っている。

問題形式別では，選択式と短答式において全国平均と県平均のどちらも上回っている。しかし，記述式においては全国平均を下回り，今後の課題といえる。

観点別においては，全国平均と県平均のどちらも上回っている。

設問別では，概ね良好な結果である中で，２（３）「数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」においては，全国平均と県平均を下回っている。また，約２割の正答率であり学んだ知識を日常生活の場面で生かされるよう指導していくことが望まれる。

＜理科＞

全体の正答率は，全国平均を下回り，県平均と同等である。

領域等別では，「Ａエネルギー」「Ｂ生命」「Ｂ地球」は全国平均・県平均とほぼ同様である。ただし，「Ａ粒子」は，全国平均・県平均を下回っている。

問題形式別の選択式，記述式は全国平均を下回り県平均を上回っている。短答式は全国平均と県平均を下回る。

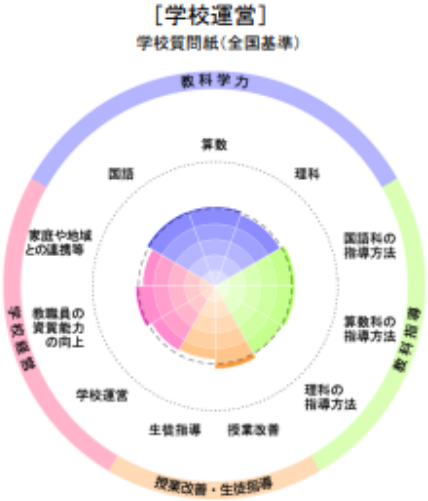
観点別においては，知識・技能は全国平均と県平均を下回る。思考・判断・表現は全国平均を下回り県平均を上回る。

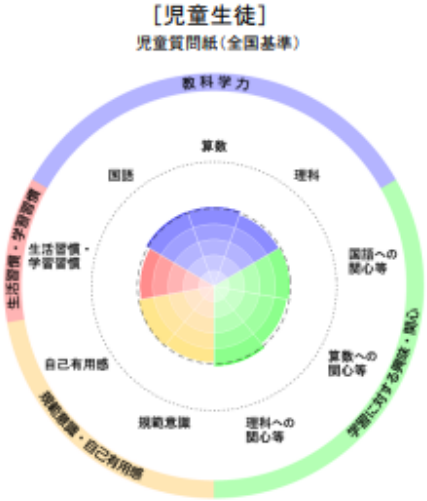
設問別では，２（１）（２）の実験器具の名称・扱い方について，大きく全国平均と県平均を下回っている。実験器具等の名称や扱い方の基礎・基本の定着を図る必要がある。

（２）学校質問紙調査・児童質問紙調査

【全国との比較】※左：学校質問紙　右：児童質問紙

学校数	児童数
18	1, 100





【傾向と分析】

＜学校質問紙＞

・算数科の授業において実生活との関連をもたせる授業や学習については十分意識して取り組んでいる。また，その際，量感を養うための具体物操作等，算数的活動も十分に取り入れられている。

・理科では，観察や実験結果から考察する学習展開が十分に行われている。その中で，観察や実験方法を考えさせることも充実させていく。

・学習規律面の項目において，低い傾向が見られるものがある。生徒指導の機能を活かした学習指導の充実を図るとともに，児童一人一人が主体的に課題解決していく授業を展開し，児童のよさや可能性を見いだす取組を続けていく。

・家庭学習の与え方や学習内容・方法について，校内での共通理解が図られており，児童への働きかけも積極的に行われている。児童の家庭に対して，「家庭学習のてびき」等を活用して，具体的な内容や目安となる時間を示すことが必要である。学校と家庭が連携することで児童への声掛けもそろう。

・指導法の改善や指導力の向上のための校内研修が積極的に行われている。授業研究の成果や課題を日常的な指導や組織的な取組として生かし，「主体的・対話的で深い学び」となる授業改善を行っていく。

・感染症予防のため，小中の情報交換が中止となることがあったが，今後はＩＣＴ機器も活用しながら小中の連携を積極的に図り教育課程を見直していく。

＜児童質問紙＞

・学習（国語・算数・理科）に対する関心や意欲については，国や千葉県と比較すると同等傾向にある。

・「規範意識」や「自己有用感」は，教員が児童のよいところを評価していることで，自己有用感・自己肯定感が高まってきている。ただし自己有用感が低い児童が2割いる。他学年・他学級の身近な教員や児童同士の認め合いを図り，学校全体で児童の自己有用感・自己肯定感を高めたい。

・保護者向けリーフレット『印西の子供たちに確かな学力を』の配付や「生活習慣・家庭学習チェック週間カード」の提案を通じて，朝食の摂取，家庭学習の習慣や自分で計画を立てて学習を進めている児童の割合が増加している。睡眠に対しては意識が低いため，保健の学習の中で健康教育に力を入れ家庭にも協力を得られるようにしていく。

・全国や千葉県と比較しても児童同士の意見交換等のためにICT機器を積極的に活用している。

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて，普段の学習の中から学び得てきている。他者との協働や対話の中で，自分の考えを深めたり，広げたりする学習を今後さらに増やしていく。ただし，全ての学習において基礎・基本は大切であるため，教員は教えるべきことはしっかりと教えるように心掛けていく。

・全国と比較して地域愛が低い。印西市としては「ふるさと印西学」の実践を通して，印西市を「知る」ところから地域学を展開していく。

３　中学校調査

（１）教科に関する調査

【全国・千葉県との比較】

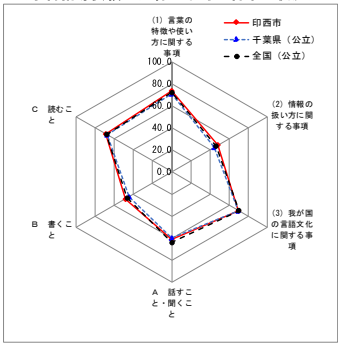
【国語科】

集計結果

対象生徒数	印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
	902	44,396	891,820

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
全体			14	70	68	69.0
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	73.8	71.0	72.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	48.6	44.8	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	70.1	70.0	70.2
	思考力，判断力，表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	61.3	60.1	63.9
		B　書くこと	1	48.6	44.8	46.5
		C　読むこと	2	69.1	67.7	67.9
評価の観点		知識・技能	10	70.2	68.1	69.0
		思考・判断・表現	6	61.8	60.1	62.3
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	6	74.8	73.8	73.7
		短答式	5	71.6	69.2	70.3
		記述式	3	56.7	54.2	57.4

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



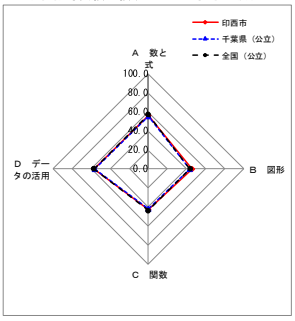
【数学科】

集計結果

対象生徒数	印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
	901	44,402	891,913

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
全体		14	51	50	51.4
学習指導要領の領域	A　数と式	5	56.6	55.1	57.4
	B　図形	3	45.9	43.6	43.6
	C　関数	3	42.5	42.2	43.6
	D　データの活用	3	56.8	56.2	57.1
評価の観点	知識・技能	9	59.6	58.7	59.9
	思考・判断・表現	5	36.4	34.6	36.2
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	52.1	52.2	52.6
	短答式	5	65.7	63.9	65.7
	記述式	5	36.4	34.6	36.2

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



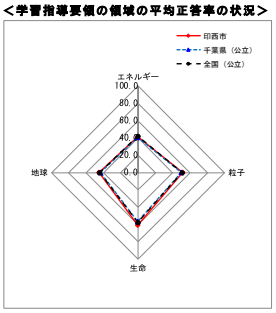
【理科】

集計結果

対象生徒数	印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
	899	44,411	892,585

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 印西市	千葉県（公立）	全国（公立）
全体		21	50	48	49.3
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	41.5	41.0	41.9
	「粒子」を柱とする領域	5	51.4	49.9	50.9
	「生命」を柱とする領域	5	61.0	56.9	57.9
	「地球」を柱とする領域	6	45.1	43.5	44.3
評価の観点	知識・技能	7	45.3	45.1	46.1
	思考・判断・表現	14	52.7	50.0	51.0
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	15	50.2	48.9	49.6
	短答式	1	26.5	24.9	24.8
	記述式	5	55.1	51.6	53.5

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



【結果と分析】

＜国語科＞

全体の正答率は，全国平均と県平均を上回っている。

領域等別では，全国平均と県平均を上回るか同等程度であった。ただし，「話すこと・聞くこと」の領域は全国平均を下回った。

問題形式別でみると，選択式と短答式においては全国平均と県平均を上回るが，記述式は全国平均を下回る。小学校と同様に記述式の問題に課題がある。

設問別では１三「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」が全国平均を大きく下回った。普段の学習の中で充実した言語活動が必要不可欠である。

＜数学科＞

全体の正答率は，全国平均と県平均のどちらも上回っている。

領域等別では，「Ｂ図形」の領域では全国平均・県平均を上回っている。「Ａ数と式」「Ｃ関数」「Ｄデータの活用」の３領域は，県平均を上回っているが全国平均を下回っている。

問題形式別では，短答式・記述式では全国平均と県平均を上回るか同等である。しかし，選択式においては全国平均と県平均を下回るっている。

観点別では，知識・技能は全国平均を下回り県平均を上回っている。また思考・判断・表現は全国平均・県平均のどちらも上回っている。

＜理科＞

全体の正答率は，全国平均と県平均ともに上回っている。ただし，正答率は約５割である。

領域等別では，３領域の「Ａ粒子」「Ｂ生命」「Ｂ地球」は全国平均・県平均ともに上回っている。「Ａエネルギー」は，全国平均を下回り県平均を上回っている。

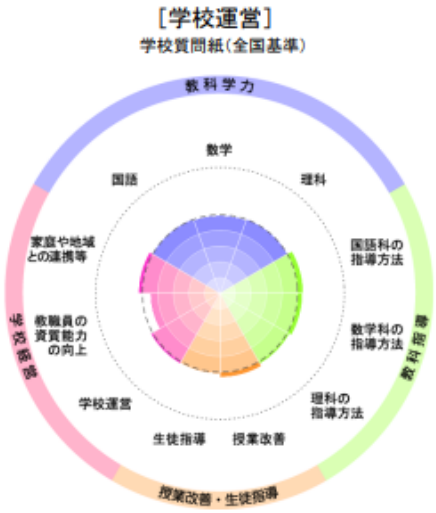
問題形式別では，選択式，短答式，記述式の全てにおいて全国平均と県平均を上回っている。

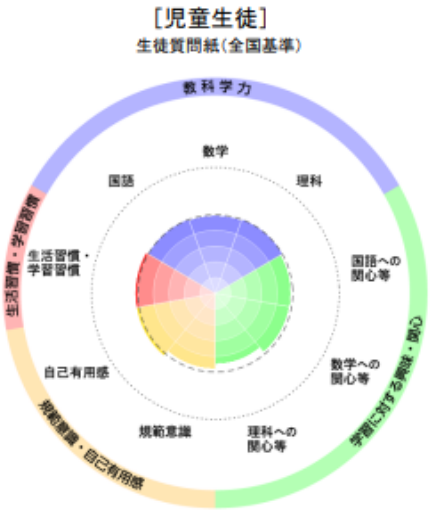
観点別においては，知識・技能，思考・判断・表現ともに全国平均と県平均を上回っている。

（２）学校質問紙調査・生徒質問紙調査

【全国との比較】※左：学校質問紙　右：生徒質問紙

学校数	生徒数
9	902





【傾向と分析】

＜学校質問紙＞

・国語科の指導において，目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする割合は全国や千葉県よりも高い。また，目的に応じて自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり，表現を工夫して書いたりする割合も全国や千葉県よりも高い。

・数学科の指導において，実生活における事象を扱った授業も積極的に展開している。また，観察や操作，実験等の活動を通して，数量や図形等の性質を見いだす活動も積極的に行っている。

・理科の指導において，自ら考えた仮説をもとに，観察，実験の計画を立てる授業の展開が，全国や千葉県と比較して低い。科学的思考力を高める為にも積極的に行っていく。

・全国や県の結果と比較して，市内中学校職員の研修に対する意識をいっそう高める必要がある。

・身に付けた力を課題解決に活かす機会を意図的に設けていることで，自分から課題解決に向かう生徒の割合が全国や千葉県よりも高い。主体的に課題に取り組む生徒を育成できる。

・全国や県の結果と比較して，近隣の小学校との連携が希薄である。教育課程に関する共通の取組を行う事で地域・保護者も安心する。

＜生徒質問紙＞

・国語・数学・理科それぞれの「好き」の割合は国や千葉県よりも低い。生徒が興味・関心をもてるような学習が望まれる。

・国語の「授業の内容がよく分かる」は，国や千葉県よりも高い。興味・関心とは対応していない。生徒が国語に対して，主体的に学習に取り組んでいくことができるように授業の改善を図っていけばさらに理解度は向上する。

・数学の「授業の内容がよく分かる」は，国や千葉県よりも低い。興味・関心と対応している。生徒が数学に対して，主体的に取り組むことができるように授業改善が望まれる。

・理科の「授業の内容がよく分かる」は，国よりも低く千葉県よりも高い。「将来理科や化学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」では，国や千葉県よりも高いが，数値自体が低く理科離れが進んでいる現状である。

・自己有用感は，経年変化で見ると増加してきている。教員が生徒のよさを評価すること（認めること）で生徒の自己有用感や自尊感情は高まっていくことが分かる。人との関わりや集団で物事を成し遂げる中で，自分のよさを感じられる体験を多くもてるようにしたい。

・調査対象年の生徒によって異なるが，基本的生活習慣の項目において国の割合を下回っている。生活の安定が学習の成果に関連していることは周知の件であるため，引き続き規則正しい生活の声掛けを行っていく。

・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている割合は全国や千葉県よりも高いが，地域の行事に参加する割合は低い。地域愛を育成していくことも大切である。